

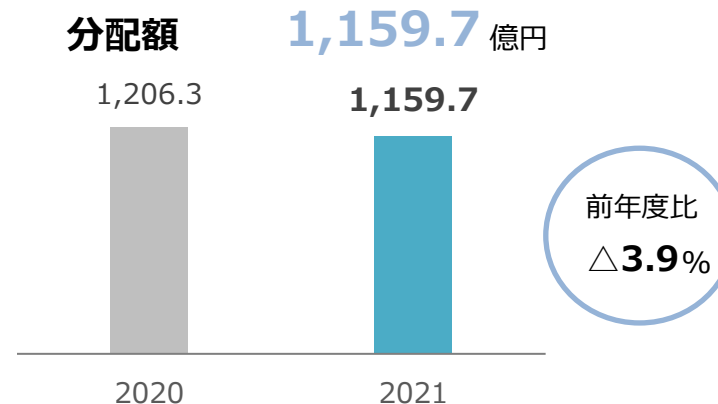
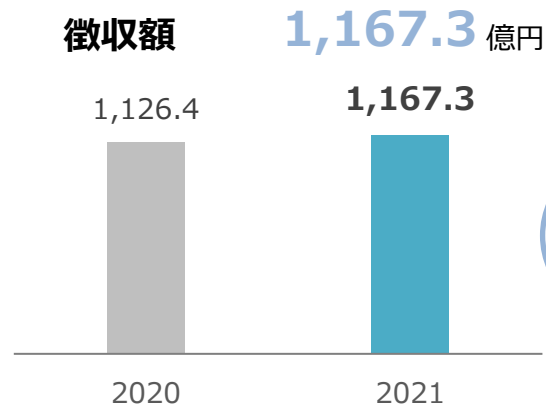
# 2021年度の事業

2022年5月18日

一般社団法人 日本音楽著作権協会

JASRAC<sup>®</sup>

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)



## ■ 徴収額

2020年度実績額比40億8千万円の増となりました。

新型コロナウイルス感染症が社会・経済全体に依然として大きな影響を及ぼし、飲食店、カラオケ利用施設などでは厳しい状況が続きました。他方、急速に進んだデジタル化・オンライン化を追い風にインタラクティブ配信が好調を維持したことに加え、開催制限等が一部緩和された演奏会等も復調の兆しを見せたことなどから、全体としては2020年度実績額を上回り、2019年度に次ぐ過去2番目の実績額を達成しました。

## ■ 分配額

2020年度実績額比46億6千万円の減となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により演奏等、通信カラオケ等が大きく減少した一方、インタラクティブ配信が好調を維持。全体としては、過去最高であった2020年度実績額には届かなかったものの、2019年度に次ぐ過去3番目の実績額を達成しました。

## 2021年度 使用料等徴収額

分野・種目	実績額 (千円)	前年度比 (%)
演奏	49,740,990	97.4
演奏等	16,145,435	104.8
放送等	27,980,558	93.3
有線放送	4,503,052	95.6
映画上映	299,267	99.6
外国入金演奏	812,676	123.3
録音	18,270,022	101.2
オーディオディスク	8,114,981	103.2
オーディオテープ	179,937	94.4
オルゴール	7,722	120.0
映画録音	62,083	128.2
ビデオグラム	9,617,542	98.8
外国入金録音	287,755	132.6
出版	768,135	106.4
特定目的複製	4,739,095	119.8
広告目的複製	1,667,580	132.9
ゲーム目的複製	3,071,515	113.7
貸与	697,205	68.9
複合	42,510,341	112.4
通信カラオケ	5,055,461	91.5
インタラクティブ配信	37,454,879	116.0
補償金	4,535	100.8
<b>合計</b>	<b>116,730,325</b>	<b>103.6</b>

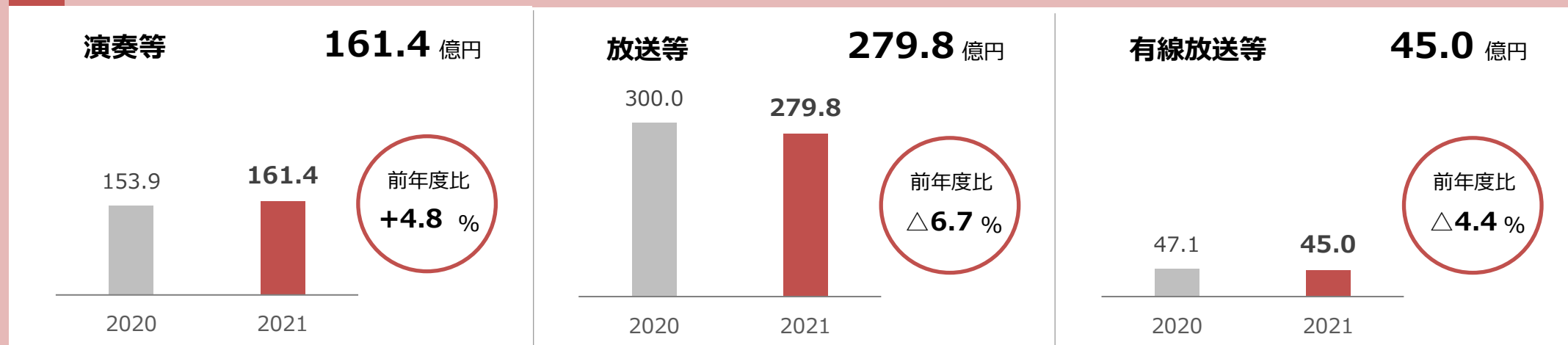
## 2021年度 使用料等分配額

分野・種目	実績額 (千円)	前年度比 (%)
演奏	51,378,408	90.9
演奏等	15,908,979	81.5
放送等	29,561,802	94.2
有線放送	4,747,910	98.4
映画上映	378,110	165.9
外国入金演奏	781,605	148.9
録音	17,899,979	94.0
オーディオディスク	8,229,691	101.7
オーディオテープ	180,836	96.4
オルゴール	7,759	112.1
映画録音	63,593	113.6
ビデオグラム	9,124,521	86.7
外国入金録音	293,575	170.2
出版	752,405	100.4
特定目的複製	4,268,326	100.3
広告目的複製	1,563,092	125.7
ゲーム目的複製	2,705,234	89.8
貸与	853,713	78.4
複合	40,813,220	104.7
通信カラオケ	5,187,753	90.6
インタラクティブ配信	35,625,466	107.1
補償金	6,003	106.2
<b>合計</b>	<b>115,972,057</b>	<b>96.1</b>

※各種目の実績額の和が「合計」と一致しないのは、それぞれ千円未満を非表示としているためです

## 1 演奏

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)



### ■ 演奏等

復調傾向にある上演・演奏会等に牽引され、2020年度実績額を上回りました。

### ■ 放送等

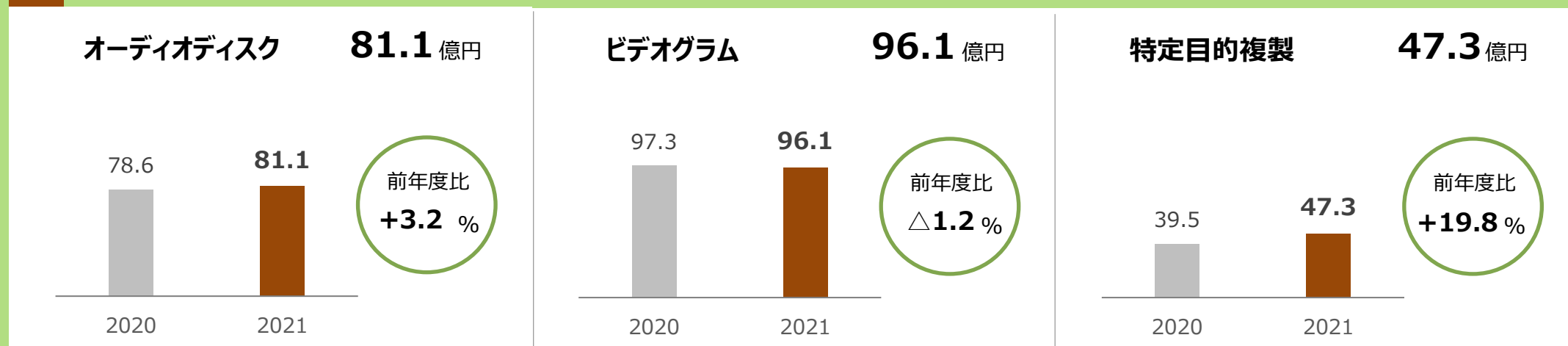
番組放送については、使用料算定基礎である2020年度の放送事業収入が新型コロナウイルス感染症の影響などから大幅に減少したことに加え、包括使用料の算定の際に反映させる利用割合(利用された楽曲に占める管理楽曲の割合)も低下したことから、2020年度実績額を下回りました。

### ■ 有線放送等

包括使用料の算定の際に反映させる利用割合の低下などの影響により、有線ラジオ放送・有線テレビ放送ともに2020年度実績額を下回りました。

## 2 録音 特定目的複製

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)



### ■ オーディオディスク

新型コロナウイルス感染症の影響が完全には解消していないものの、発売停止・延期が相次いだ2020年度との比較では申請件数が増加したこと、複数のヒット製品があったことなどから、2020年度実績額を上回りました。

### ■ ビデオグラム

複数のヒット製品があったものの、コロナ禍でコンサートやライブの延期・中止が相次いだことに伴い、ライブビデオの申請件数が前年度の実績を割り込んだこと、前年度に空前の大ヒット製品があったことなどから、2020年度実績額を下回りました。

### ■ 特定目的複製

広告目的複製については、管理楽曲を利用した広告の出稿が増加したことなどから、2020年度実績額を大きく上回りました。ゲーム目的複製については、家庭用ゲームにおいて管理楽曲を多用したヒット製品が複数あったこと、スマホアプリゲームにおいて管理楽曲の利用が増加したことなどから、2020年度実績額を上回りました。

## 3 複合

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)

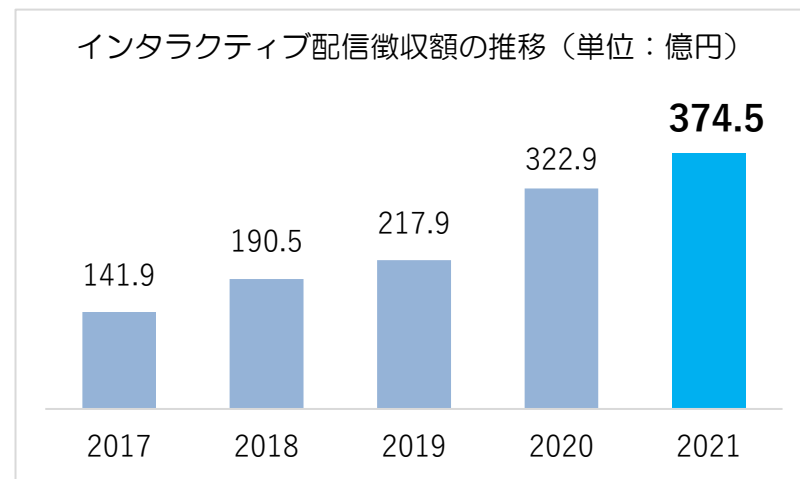


### ■通信カラオケ

新型コロナウイルス感染症の影響によりカラオケ利用施設の休業・廃業が相次いだことに伴い、通信カラオケ端末の稼働台数が減少したことなどから、2020年度実績額を下回りました。

### ■インタラクティブ配信

音楽ダウンロード以外のほぼ全ての分野で好調が続いたことなどから、2020年度実績額を大きく上回りました。音楽ダウンロードについては、サブスクリプションサービスの普及に伴い、市場の縮小傾向が続いていることから、2020年度同期を下回りました。



## ■ 放送番組の同時配信サービスに関する協議

主に民放在京キー局が同時配信サービスの開始に向けた準備を進める中、使用料の評価の在り方について、利用者団体や放送事業者との間で協議を継続しました。

## ■ 外国入金増加等に向けた取り組み

### (1) 動画コンテンツ情報等の登録

作品および動画コンテンツの情報について、関係部署間の連携を強化し、CISAC（著作権協会国際連合）が運営するデータベースへの登録作業を推進しました。

### (2) 外国団体等との管理契約の締結等

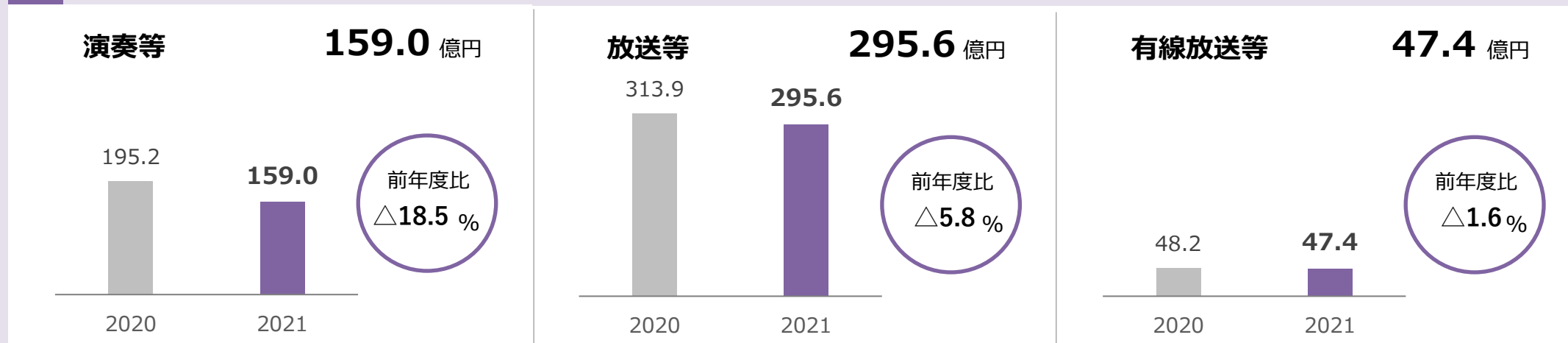
- ・2021年4月、ECCO（セントルシアの著作権管理団体）と演奏権に係る相互管理契約を締結しました。
- ・2022年1月、MACA（マカオの著作権管理団体）と録音権に係る相互管理契約を締結しました。また、ドバイ国際博覧会における音楽利用について、ESMAA社（アラブ首長国連邦の著作権管理事業者）と演奏権および録音権に係る管理委託契約を締結しました。

## ■ ブライダル目的複製使用料に係る規定の整備

ブライダル事業者を対象とした実証実験の結果を踏まえ、ブライダル市場における楽曲利用活性化を図ることを目的として、ブライダルに係る進行用録音物・記録用録画物の使用料額に上限を設けることを内容とする「ブライダル目的複製使用料の取扱い」を12月に制定し、実施しました。

## 1 演奏

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)



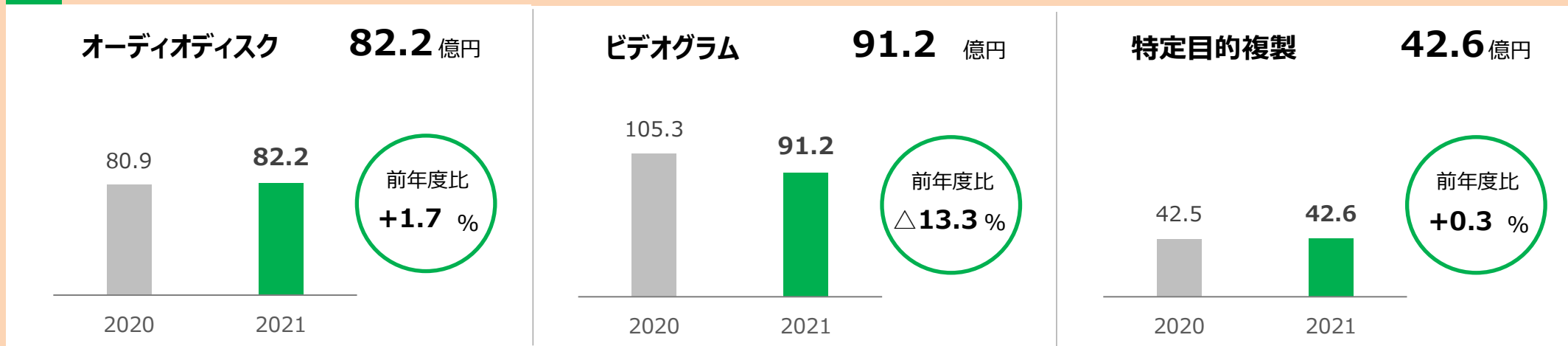
## ■ 科目ごとの分配対象作品数

科目		主な分配対象使用料	分配対象作品数
演奏等	上演・演奏会等	2020年10月 ~ 2021年12月 入金分	243,534 作品
	社交場	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	32,452 作品
	カラオケ	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	309,826 作品
放送等	NHK、民放地上波ラジオ、民放地上波テレビ	2020年10月 ~ 2021年9月 使用分	804,095 作品
	コミュニティ放送、放送大学、民放衛星ラジオおよび民放衛星テレビ	2020年4月 ~ 2021年3月 使用分	
	CM放送	2020年10月 ~ 2021年9月 入金分	459 作品
有線放送等	有線ラジオ放送	2020年4月 ~ 2021年3月 入金分	411,049 作品
	有線テレビ放送	2020年4月 ~ 2021年3月 使用分	240,058 作品



## 2 録音 特定目的複製

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)



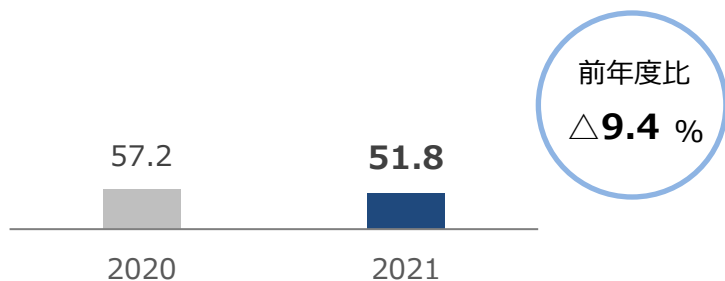
### ■ 科目ごとの分配対象作品数

科目		主な分配対象使用料	分配対象作品数
オーディオディスク	大手レコード会社など包括契約者	2021年1月 ~ 2021年12月 使用分	517,274 作品
	包括契約者以外の利用者	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	
ビデオグラム	大手映像ソフト制作会社など包括契約者	2020年10月 ~ 2021年9月 使用分	159,353 作品
	包括契約者以外の利用者	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	
特定目的複製	広告目的複製	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	788 作品
	ゲーム目的複製	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	3,025 作品

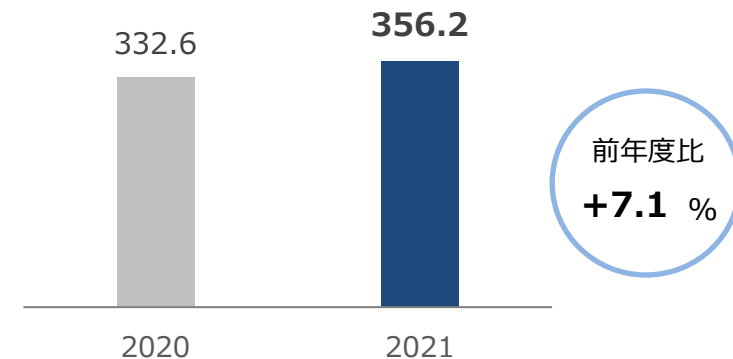
## 3 複合

(数字はそれぞれ実績額 単位：億円)

通信カラオケ **51.8** 億円



インタラクティブ配信 **356.2** 億円



### ■ 科目ごとの分配対象作品数

科目	主な分配対象使用料	分配対象作品数
通信カラオケ	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	302,907 作品
インタラクティブ配信	2021年1月 ~ 2021年12月 入金分	2,272,568 作品

## ■ 管理対象作品数

**77,748,994作品**

(2022年5月12日時点でのCIS-Net登録数。JASRACが登録した**1,986,784作品**を含む)

## ■ 分配対象作品数・権利者数（全分野を通じたユニーク数）

		2020年度	2021年度
分配対象作品数		2,778,889作品	2,826,076作品
分配対象権利者数 (内国)	著作者	76,278人	76,252人
	音楽出版社	2,888社	2,895社
分配対象権利者数 (外国)	著作者	379,850人	383,105人
	音楽出版社	50,258社	48,318社
		※126の外国団体を通じて分配	※117の外国団体を通じて分配

CIS-Net : CISACが開発した国際的な作品情報データベースで、加盟各団体が管理作品データを提供し、各団体の管理作品情報等をネットワーク上で共有している。

## ■ 分配規程の変更

- (1) 演奏会等の包括使用料に利用割合（利用された楽曲に占める管理楽曲の割合）の反映を開始したことに伴い、公演から入金までの期間が延びたことから、その影響を最小限にとどめるため、入金から分配までの期間を短縮しました。これにより、2020年10月から2021年12月までに支払われた5期分の演奏会等使用料を分配したものの、新型コロナウイルス感染症の影響で減収となったことから、2020年度実績を下回りました。
- (2) インタラクティブ配信において、利用者から利用曲目が報告されないなどの理由から分配資料が収集できないサービスの使用料を分配するため、分配規程を一部変更することにより、サービス内容が類似する他の配信サービスの分配資料を活用して分配することができることとしました（2022年3月分配期から実施）。

## ■ 分配明細書のデジタル化

委託者の利便性向上等を目的とした分配明細書のデジタル化について、2023年6月分配期からの提供開始に向け、委託者のニーズを確認しながら、検討を進めました。

## ■ 作品届未提出への対応

作品届が提出されない作品については、利用実績を把握しても、関係権利者とその分配率を特定できず分配保留となります。これを解消するため、内国作品について「著作物権利関係確認書兼作品届」の活用を進め、外国作品についても音楽出版社・外国団体に対して作品届の提出を依頼しました。これらの結果、46,652作品（10億6千万円）の分配保留を解消しました。

## ■ 演奏曲目を自動特定するデバイスのトライアル実施

フィンガープリント技術を用いて利用楽曲を自動的に特定するデバイス（Audoo Audio Meter）をDJバー2店舗に設置し、楽曲特定における精度の検証と運用面の課題等を把握するためのトライアルを実施しました。演奏権分野において、フィンガープリント技術を用いて利用曲目の収集を行うのはこれが初めてです。

## ■ 2022年3月分配期の管理手数料実施料率の引下げ

経費削減に努めた結果、経常費用の支出が予算内に収まる見込みとなったことから、支出の見込まれない部分をできる限り早く多くの受益者に還元することとし、2022年3月分配期に限り、下表の区分について管理手数料実施料率を引き下げました。

使用料の区分	届出料率	2021年度実施料率	2022年3月分配期限り
演奏等(大規模演奏会等)	25 %	15 %	13 %
演奏等(カラオケ)	25 %	24 %	22 %
放送等	10 %	8.5 %	6.5 %
有線放送等	10 %	9.5 %	7.5 %
業務用通信カラオケ	10 %	9 %	7 %
インタラクティブ配信	10 %	9.5 %	7.5 %

## ■ 著作者を対象とする取り組み

音楽著作権の基礎知識やJASRACの著作権管理の概要を説明することで、著作権の知識を身に付け、JASRACをより身近に感じてもらうとともに、信託契約の締結を促進することを目的として、全国各地の若手音楽クリエイターを対象としたオンラインイベント「JASRAC Creator's Path “THE LAB”」を、2021年11月と2022年2月にそれぞれ開催しました。

また、地方を拠点とする音楽クリエイターを支部職員が訪問して、JASRACの業務、信託契約締結のメリット等を説明するなど、全国の支部を活用した取り組みを強化しました。

## ■ 音楽出版社を対象とする取り組み

音楽出版社に対し、最新の配信サービスの動向など権利者から高い関心が寄せられている情報を中心として、インタラクティブ配信の管理業務の現状を説明するとともに、委託先としてJASRACを選択するメリットのアピールを行った結果、管理委託範囲変更により人気作品がJASRACの管理作品となる等の成果がありました。

### <2021年度の新規委託者数>

	著作者	音楽出版社	その他	合計
新規信託契約締結者数	295 (341)	82 (83)	2 (4)	379 (428)
新規入会者数	71 (97)	12 (14)	4 (2)	87 (113)

( ) 内は2020年度

## ■ JASRAC賞

2020年度の分配額上位作品の著作者、音楽出版社等を表彰しました。詳細は右記二次元バーコード参照。



2021年JASRAC賞

## ■ JASRAC音楽文化賞

売上や利用実績などの数字には表れない地道な活動を行い、音楽文化の発展に寄与した功績をたたえ、4者を顕彰しました。詳細は右記二次元バーコード参照。



第8回JASRAC音楽文化賞

## ■ 長期契約者への感謝状贈呈

30年以上にわたってJASRACと利用許諾契約を締結し、著作物使用料の支払いにより新たな創作を支えてくださった全国の1,005者に対し感謝状を贈呈しました。

## ■ 著作権制度の普及啓発等

寄付講座等（信州大学および放送大学学園）を通じた普及啓発や、著作権法等奨学研究会（東京大学）を通じた研究支援の取り組みを継続しました。

## ■ 音楽教室

音楽教室における演奏に著作権が及ばないことの確認を求めて一部の音楽教室事業者が提起した訴訟について、6月8日に上告理由書および上告受理申立て理由書を最高裁判所に提出しました。

※ 2021年3月18日に知的財産高等裁判所がJASRACの主張を一部退ける判決を下したことから、同年3月31日に上告提起および上告受理の申立てを行っています。

## ■ 新型コロナウイルス感染症への対応

2020年度に引き続き、各分配期の使用料送金日を二週間前倒したほか、会員に対する会費の請求を停止しました。また、6月30日に開催した定時社員総会では、インターネットによる議決権行使（電子投票）の仕組みを導入し、議場の様子をライブ配信するなどして、正会員の利便性の確保と感染拡大防止の両立に努めました。



## ■ 適正な対価還元等のための取り組み

### (1) 意見提出等

- ・文化審議会著作権分科会に渡辺俊幸理事が委員として参加し、適正な対価が権利者に還元される制度を早急に構築することを求める意見などを述べました。
- ・いわゆる拡大集中許諾制度等について検討を行っている文化審議会著作権分科会基本政策小委員会が実施したヒアリングに宮内隆常務理事が出席し、権利保護の観点や集中管理の状況に十分に留意して慎重に検討することを求める意見などを述べました。
- ・「放送同時配信等の許諾の推定規定の解釈・運用に関するガイドライン」に関する意見募集（パブリックコメント）に対し、権利者に対する正当な対価の支払が確保されることを求める意見を提出しました。
- ・授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）の運営に参画して、授業目的公衆送信に係る補償金の徴収・分配等の業務が適切に行われるよう求めました。

### (2) 岸田総理大臣への表敬訪問

2022年1月11日、いではく会長、浅石道夫理事長が岸田文雄総理大臣を表敬訪問し、いではく会長から「政策の実施に当たっては、文化を忘れないでいただきたい」と音楽作家の立場からの要望などを伝えました。

## ■ アジア・太平洋地域における連携強化

- (1) 5月、CIAM（国際音楽創作者評議会）の地域組織であるAPMA（アジア・太平洋音楽創作者連盟）の臨時総会において、渡辺俊幸理事が執行委員に選出されました。JASRACは、アジア・太平洋地域の音楽創作者の権利および利益の保護の強化のため、APMAの活動への協力を通じて著作権バイアウト問題への対応などを行いました。
- (2) 6月、文化庁およびWIPO（世界知的所有権機関）と連携し、「WIPO著作権集中管理団体に関する研修（CMO研修）」において、アジア・太平洋地域の政府職員および管理団体職員（6カ国25人）に対する講義をオンラインで行いました。JASRACは、集中管理を促進するための課題やJASRACの管理方法などについて説明しました。
- (3) 9月、「WIPO著作権集中管理団体に関する研修（CMO研修）」の参加国の一つであるカンボジア政府からの要請を受けてWIPOが実施したフォローアップ研修において、同国の政府職員、管理団体（CamCos）職員および著作者に対する講義をオンラインで行いました。
- (4) 2022年3月、音楽市場の成長が著しい中国の著作権管理団体MCSCとオンライン実務者会議を開催し、著作権管理の諸課題についての情報や意見の交換を行いました。

# 一般社団法人 日本音楽著作権協会

JASRAC<sup>®</sup>